

3 度目の正直晴天の北岳、3 位昇格間ノ岳

齊藤整紀

- 平成 27 年 8 月 7 日夜～9 日
 - メンバー 齊藤整紀、村山隆（友人）
 - コース
- 7 日 新宿駅 19:00（特急あずさ 31 号）
⇒20:36 甲府駅：ホテル相川（泊）
- 8 日 甲府 4:30（バス）⇒6:40 広河原
7:15→10:00 大樺沢二俣→11:50 二俣
上部（昼食）12:15→13:50 八本歯コル→
14:20 トラバース分岐→15:30 北岳山荘（泊）
（計 8 時間 15 分）【コスト 5 時間 40 分】
- 9 日 北岳山荘 4:20→5:00 中白根→6:
00 間ノ岳（朝食）6:40→8:10～30 北岳
山荘→10:00 北岳（昼食）10:40→11:
25 肩ノ小屋→11:40 小太郎分岐→13:40
御池小屋→16:20 広河原 16:40（バス）
（計 12 時間 20 分）【コスト 8 時間 40 分】

【はじめに】

過去 2 度とも全く展望が得られていない北岳を効率的に狙いで計画したが、荒天予報のため 1 月遅れの 8 月上旬に再企画。今般 3 位タイ昇格でめでたい間ノ岳も。

8 月 8 日（土）晴れ時々曇り

前夜、仕事帰りに直接、新宿から甲府に向かい、駅前のビジネスホテルに宿泊。どこも満室状態。一人 3,000 円は安い。

甲府駅南口バスターミナル 6 番線は、ホテルから 5 分程だが、4 時前には既に 20 人以上が並び、以後続々増えて、3 台の小型

バスに分乗し 4 時半出発。広河原には 15 分遅れで到着。更にトイレ待ちなどで予定は押し気味である。兎に角人が多い。

吊り橋手前で北岳が姿を現したが、なだらかで高度感がなく、別物に見える。

既に日差しは強いが、樹林帯の径は気持ちが良い。大樺沢を左に右に横断を繰り返して、ようやく大樺沢二俣に至る。

ここからは日差しを遮る物なし。友人は最近になく体が重そうである。先の零合目からの富士登山の疲れか？

この先から八本歯コルまでは、落石が多くなるため、休憩場所に気を使う。右上にバットレスが迫力のある姿を現し、時折クライマーの掛け声も響く。

高度を上げて気付くことは、落石は谷沿いに走るため雪渓がハイリスクということである。どこからかガラガラと不気味な落石音が響き、皆に緊張が走る。昼時で、バットレス側の谷と八本歯のコル側の谷の合流点から挟まれた尾根に上がった「二俣上部」の標識のある所で昼食。

ここから八本歯のコルの取り付けまでの雪渓左岸沿いのガレた急勾配は 30 度位で時間がかかった。更にこれでもか、と連続する梯子では、対向者も多くなり、時間を要した。やがて尾根が見え、左上方に梯子を急角度に連ねたポーコン沢ノ頭が姿を現し、八本歯のコルに到着した。

今度は間ノ岳方向の展望も開け、やが

て今晚泊まる北岳山荘も望める。また小屋から間ノ岳までの明日のコースの全容が眺望できる。北岳山頂への尾根を少し上り、トラバース分岐で左折する。ここから北岳山荘へは、お花畑のあるトラバース路を少しずつ高度を下げながらゆっくり進む。季節にはキタダケソウも咲いていたはず。今はウスユキソウが主役で、他の花々も咲き競う。量、種類とも見事。しかしトラバース路は、梯子や木枠で補強された箇所もあり足元は慎重を期する。

小屋は人で溢れている。受付が済むまで1時間近く要した。夕食は5回目の19時半から！好天の午後、小屋前のベンチで3000mの山並みを眺めながら、生ビール(900円)と三岳を楽しんだ。北岳山荘は、肩ノ小屋よりは綺麗だが、夕食のサラリとした小盛のカレー1杯のみには驚いた。おかずもサラダもないため、ビール等を飲む人もなく、淡々とスプーンを口に運んで帰る。8,700円ではしかたないか！ちなみに夕食最終組は6回目の20時15分からであった。また夜の布団1枚に2名では、あまり眠れなかった。

8月9日(日) 晴れ

朝は3時に起きて、4時に朝食代わりの弁当をもらって、ザックはデポして出かけた。ランブも30分もすると不要になる。中白根山へのなだらかな登りは、日の出との競争で、山頂手前で日の出を迎え、山頂から朝日を浴びた山々を撮った。

間ノ岳までは起伏のある小ピークを3つ程越え、時間もかかった。しかし、展望は素晴らしい。登り始めに見えていた

聖、光は荒川、赤石に隠れてしまったが、塩見が間近に君臨する様は迫力がある。

あっという間に時間が過ぎて、小屋へ戻り、態勢を整えて北岳へ向かう。ピラミダルで鋭角な眺め通り、斜面は勾配があり、何段にも連なり、大きく、きつい。

山頂は、間ノ岳とは一味違い、甲斐駒、地蔵のオベリスクが白く輝き、仙丈のカーンが大きい。北ア槍・穂高、乗鞍に続き、中央アルプスの後方の御嶽山は煙を上げ、南半分は溶岩で白く変わった。何と言ってもここからの富士山は日本一。この2位の北岳からの3位間ノ岳の眺めは天馬の上半身の様。農鳥も捨てがたい。

ゆっくり食事と展望を楽しんだ後は長い下山が待っている。肩ノ小屋で小休止を取り、小太郎分岐、白根御池小屋へ急いだ。木陰がないのが辛い。昔、妻と台風下の下山途中、この草すべりで転んだ場所を思い出した瞬間に、また転んだ。白根御池小屋では韓国の若者団体客が大勢でうるさい。水が豊富で、詰め替えた。

ここから広河原までも長かった。樹林帯の木陰がせめてもの救いか。途中、ヒヤリとした。友人がジグザグの下山路で躓き、3段下の径まで飛んで止まったが、奇跡的に無事であった。11時前からバットレス付近でヘリコプターが活動する連想もあり、胆を冷やした。予定より大分遅れたが、何とか最終バスに間に合い、甲府駅で乾杯し、特急で帰路に。しかし不運にも国分寺の人身事故で大幅遅延、12時近い帰宅であった。好天下、3000m峰に2日間で20時間以上いた充実感と疲労感の相まった山行であった。(了)

秀麗無比なる鳥海山よ！：祓川コース

齊藤整紀

- 平成 27 年 8 月 13 日（木）日帰り
- メンバー 齊藤整紀(CL)、齊藤太(弟)
- コース

13 日 【祓川コース 標準：6 時間 45 分】
実家（車）4：00⇒5：50 祓川駐車場 6：00⇒7：00 御田⇒8：30 氷ノ薬師⇒9：30 七高山⇒10：00 新山⇒10：30 七高山（昼食）10：50⇒13：40 駐車場（車）13：50⇒15：50 実家 【所要：7 時間 40 分】

【はじめに】

帰省中の 13 日か 14 日に登山予定であったが、天気予報は 13 日しか晴れないため、墓参りに間に合う帰宅予定で決行。

8 月 13 日（木）晴れ時々曇り、小雨

3 時に起床、4 時前に弟運転で出発した。車は順調で、秀麗無比なる「出羽富士」らしい姿が眺められる。しかし祓川登山口駐車場に着くころから小雨がパラついてきた。頂上部は見通し良く晴天であるが、やむなく雨具の上着を着て出発。結局、終日、晴れ時々小雨を繰り返した。

まず 1200m 地点の祓川ヒュッテに登山届を出し、湿原を過ぎると、急登になる。40 分程で 6 合目・賽の河原の雪渓に至る。久しぶりの雪の感触であるが、朝は固く締まり、雨に洗われて、滑り易い。7 合目・御田は湿原でお花畑が美しい。その上の雪渓を超えて、8 合目・セツ釜

という溶岩に浸食された溪谷の滝壺群が現れる。佳境は 9 合目の氷ノ薬師で、溶岩で出来た裸岩溪谷を越える。

弟は、昔、6 月の鉾立ルートに付き合ったことがあるものの、祓川ルート of 厳しさにすっかり参っている。更にゴロゴロした火山礫の舎人坂は最後の難所である。このあたりもツガザクラ、イワカガミなど花は豊富で見応えがある。

外輪山・七高山直下の鎖場の途中で、探していたチョウカイフスマの白い花を見つけた。一塊になって咲いている。

山頂一帯には青空が広がり、2230m の七高山山頂は気持ちが良い。弟は、すっかりバテて、新山登頂を回避の申し出。弟を七高山で待たせて、私一人新山へ向かった。いつもは神社のある正面から登るところ、今回は弟が見えるように七高山に相對した新山の裏側から入り、胎内巡りルートを往復することになった。

岩を積み重ねた山頂からは、外輪山で待つ弟の姿を認めながら、新山山頂の展望を楽しんだ。祓川ルートからの登山客は少ないが、鉾立ルートなどからの客はかなり多い。韓国からのグループの一人にカメラシャッターを頼んだ。

下山は弟の足を勘案、薬を飲み、ペースダウンし、安全第一の下山を心掛けた。

帰路は 7 号線の渋滞を避けるため、高速を利用、無事、墓参りに間に合った。(了)